



# はばたけ立花中

第21号 平成31年3月1日  
編集責任者 校長 城後 慎一

【重点目標のキーワード】 〔当面の目標〕生徒会を中心に立花中文化を確立しよう！  
**表現力・主体性の育成** 自分から「**気付き**」「**考え**」「**実行する**」とともに、**相手と自分のために、あいさつと感謝を大切に**する素直な生徒

## 「見つめる目」と「感じる心」が培われることで「社会で生きる学力」が育つ！

### 【ざぶん賞入選結果】

ざぶん環境賞	中嶋 遥 (3年)
八女市長賞	小野彩葉 (1年)
矢部川ざぶん環境賞	月足拓未 (2年)



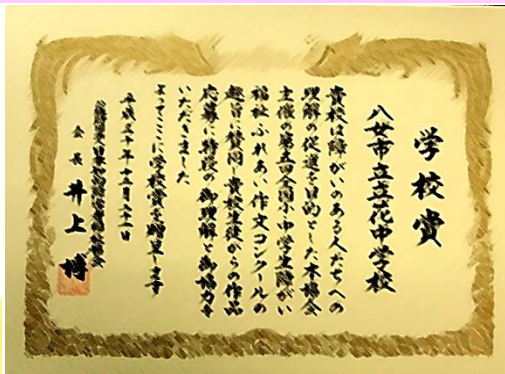
### 【愛樹祭入賞結果】

市・みどりの賞 (八女市教育長賞)	井上虎乃助 (3年)
----------------------	------------

明日3月2日(土)に、黒木地域交流センターにおいて、ざぶん賞入賞者の式典が催されます。入賞者は左表の通りです。「ざぶん環境賞」の中嶋さんの作品は、左のように、ざぶん賞を支援するアーティストが絵をつけてコラボ作品として本人のもとに戻されました。その他の応募者には一人ずつ、自分の作品が活字で打ち込まれた「ざぶん大使認定証(右)」が発行されています。



愛樹祭コンクールでは、3年生の井上さんが詩・作文の部で入賞(左表)するなど、朝読書や国語科におけるコラム学習等の読む・書く活動の成果が見られるようになってきました。



本校生徒の様々な意見文が多方面で評価され、本年度は「日本知的障害者福祉協会」から「学校賞」をいただきました(左)。

### 子供の感性はどこで培われるか！

先日、下川栄養士の栄養管理の下で毎日の給食を作ってくださる調理員の皆さんに、健康委員会から、感謝のメッセージをプレゼントする機会がありました。



生徒たちのメッセージは様々でしたが、中には調理員さんが思わずほほえんでしまいそうな内容もありました。自分の行為で人が喜んでくれる。喜ぶ姿を想像して書く。そういう小さな経験を積み重ねることで感受性が育ち、意見文等に表れているのかもしれない。

竹の子は地面に出るか出ないかの状態で収穫します。素人に **見ようとし**なければ、次第に感覚が研ぎ澄まされ、見つめられるようになります。何よりも関心を持って物事に当たることで、見つめる目と感じる心が育つものと思います。

インターネットで「意見」があふれ返っている時代だからこそ、「物語」は余計に力を持たなくてはならない -村上春樹-

### 【筑後地区新年揮毫会審査結果】

天賞	【1年】小野彩葉
地賞	【1年】原亜紗妃 【3年】田中菜津実、中村果穂
人賞	【1年】下川侑夏、野中清花 【2年】塚田由貴香
秀逸	【1年】濱崎莉子、今村有那、平島麻椰、中村大聖、牛島明日香、溝田愛莉、牛島ひかり 【2年】北島優叶 【3年】平島希咲乃、野中 明、井上結菜、今村碧実
入選	【1年】伊藤麻結、田中準一 【2年】牛島 希、大賀ももな、松尾実乃里、金谷瑠南 【3年】谷川千尋、吉田光里、牧野圭恭、真島龍矢、松尾葉奈、馬場かんな、田中陽也、松本小都恵、原彰太郎、山田杏奈

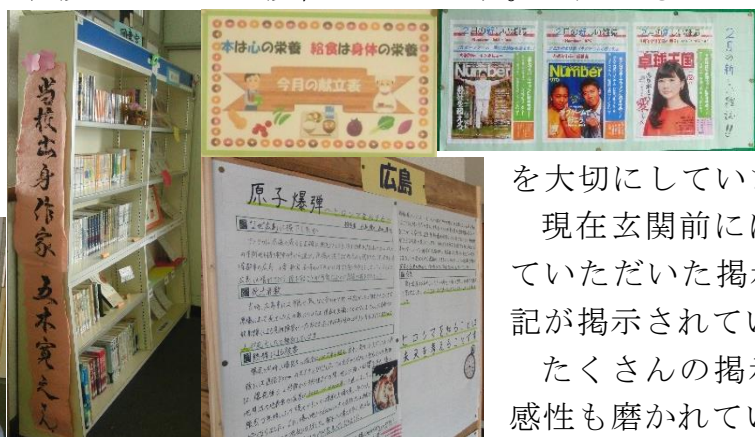
筑後地区新年揮毫会には多くの生徒の作品が評価されました(左表)。

感性は、文言を使って理路整然と説明したり、科学的に証明したりして育つものとは別に、目に見えるものや聞こえること、味わうこと等で生じる感覚・感情が蓄積され、自分の中に培われるものです。

本校の生徒昇降口や階段等には、生徒の感覚・感情に影響を与えるような掲示物が多くあります。



国語科の中村ともみ教諭は授業内容の紹介や詩や短歌の掲示を、図書室の川端栄子司書は新刊本の紹介や図書室前には、本校にゆかりのある五木寛之氏の特設コーナーを設置しています。二人ともPC等が普及している現代こそ、読



書を通した文字文化を大切にしたいとの願いがあり、より文化に親しむ環境づくりを大切にしています。

現在玄関前には、用務員の川島さんに作成していただいた掲示板に、2年生の修学旅行体験記が掲示されています。

たくさんの掲示物に囲まれて、立花中生徒の感性も磨かれています。